

# 森美術館 2010 年度展覧会一覧

森美術館は、この度 2010 年度に開催する展覧会を発表しました。

2010 年度は、日本の文化や芸術を改めて見つめ、再定義する、「日本の再定義」をテーマに、日本のアーティストやクリエイターを中心に紹介する 3 本の企画展を開催します。また、世界各国の才能豊かな若手アーティストを紹介する MAM プロジェクトでは、ニューヨーク、インドネシアのバンドゥンなどを拠点に活動するアーティスト 3 名を紹介します。

## 日本を再定義する

2008 年秋以降の世界同時不況は、経済のグローバルな繋がりをわれわれに実感させることとなりました。また、アジア圏域での日本の位置づけについても、急速に成長する新興国との関係において、今後期待される日本の役割を考えるべき時期にきています。むろん、国内的にも大きな政治的変革が期待される年であることは言うまでもありません。

コンテンポラリー・アートの世界においても、1990 年代以降の多文化時代に世界各地から創造的なメッセージが発信されるなか、それぞれの地域の活動を文化的、社会的、歴史的な観点からいかに世界へ文脈化していくかが問われています。このような流れの中で、森美術館は、日本の文化や芸術を見つめなおし、再定義することをテーマに、2010 年の展覧会を企画しています。

## 2009 年度の森美術館

4 月 4 日～7 月 5 日は、優れた現代美術の所蔵で名高いウィーンのティッセン・ボルネミッサ現代美術財団コレクションと協同し「万華鏡の視覚:ティッセン・ボルネミッサ現代美術財団コレクションより」展を開催。視覚のみならず、聴覚や触覚、空間把握能力など、人間のさまざまな感覚を刺激する作品を展示し、283,350 名を動員しました。

また現在は、現代美術に限らず、建築や展覧会企画、出版など、様々な領域で活躍する中国のアーティスト、アイ・ウェイウェイの個展「アイ・ウェイウェイ展 - 何に因って?」と、若手映像作家小泉明郎の作品を紹介する「MAM プロジェクト 009: 小泉明郎」展を 11 月 8 日まで開催しています。

11 月 28 日からは、近年の医学の状況を踏まえ、ロンドンのウエルカム財団から借用する約 150 点の貴重な医学資料や美術作品、英国ロイヤルコレクション所蔵のレオナルド・ダ・ヴィンチの解剖図 3 点に約 30 点の現代美術作品を加えて、医学と芸術、科学と美を総合的なヴィジョンの中で捉え、人間の生と死の意味をもう一度問い直す「<sup>いのち</sup>医学と芸術: 生命と愛の未来を探る」を開催します。また、同時開催の「MAM プロジェクト 010: テレルヴォ・カルレイネン+オリヴァー・コフタ=カルレイネン」展では、世界各地で不平不満を募り、ユーモラスな不満やさまざまな憂いにメロディーをつけて、地元住民が高らかに歌うプロジェクト「不平の合唱団」の東京版が登場します。

### PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報担当: 渡邊、田村、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー



MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 六本木クロッシング2010展:芸術は可能か？ ～明日に挑む日本のアート

2010 年 3 月 20 日〔土〕－ 7 月 4 日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

森美術館は、2010 年 3 月 20 日（土）から 7 月 4 日（日）まで、「六本木クロッシング 2010 展:芸術は可能か？」を開催します。「六本木クロッシング」は、東京の中心、六本木ヒルズ最上層の美術館である森美術館が、日本のアートシーンの“明日”を見渡すべく、多様なジャンルのアーティストやクリエイターを紹介する展覧会として 2004 年にスタートしました。3 年に一度開催され、毎回異なるキュレーターが、複数の視点により独創的な作品を選出、まさに六本木で、その時代を代表する刺激的な作品が「交差する」、定点観測的な展覧会です。

3 回目を迎える本展には、長いキャリアを持つアーティストから若手注目株まで約 20 組が参加し、写真、彫刻、インスタレーション、映像、グラフィティ・アート、パフォーマンスなどを紹介します。金融危機を背景に世界的に将来が見えにくく



照屋勇賢《告知一森》2005 年 紙袋、糊 18 cm×8 cm×28 cm  
ソロモン・R・グッゲンハイム美術館、ニューヨーク

なっている今日、日本のアートの動向もまた不明瞭ですが、そんな時代にこそ、アートの本質や可能性について考える良いチャンスでもあります。バブル経済崩壊直後に、アーティスト・グループ、ダムタイプ、古橋悌二は、同時代的な問題の立て方が困難な 1990 年代のアートを考え、「芸術は可能か？」という問いを投げかけました。アートがアートの枠の中に留まらず、社会に影響を与えることにより成立する可能性を問う、この簡潔でいて重要な問いは、社会・経済が再び不安定となった今日、また意義深いものです。

「六本木クロッシング 2010 展」は「芸術は可能か？」という古くて新しい問いを出発点に、社会・経済、文化・倫理、環境など現代社会のなかのさまざまな問題を描くアート、閉ざされた個人の内面世界を描くのではなく、他者との協働やジャンルの横断により、新しい可能性を見せるプロジェクト、私たちの日常があるストリートを舞台とする創作活動、そして新しい美学の誕生を予感させる新世代の表現などを通して、シャープでエネルギーに溢れ、力強く明日に挑む日本のアートの今を紹介します。

## 《出品作家》

相川 勝、青山 悟、雨宮庸介、宇治野宗輝、加藤 翼、小金沢健人、コンタクトゴンゾ、志賀理江子、鈴木ヒラク、高嶺 格、ダムタイプ、Chim ↑ Pom、照屋勇賢、HITOTZUKI (Karni + Sasu)、文字図形、森村泰昌、八幡亜樹、横溝 静、米田知子、ログズギャラリー

主催：森美術館

企画：木ノ下智恵子（大阪大学コミュニケーションデザイン・センター特任講師）、窪田研二（インディペンデントキュレーター）、近藤健一（森美術館アソシエイト・キュレーター）

## PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# ネイチャー・センス展：日本の自然知覚力を考える 吉岡徳仁、篠田太郎、栗林 隆

2010 年 7 月 24 日〔土〕－ 11 月 7 日〔日〕 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

われわれは地球温暖化をはじめとするグローバルな環境問題に直面し、現代と未来のエコロジー（生態系）やサステナビリティ（持続可能性）を地球規模で考える時代を迎えています。また、より豊かな人生を求める視点からもスローライフ、ロハスといった概念への関心も高まっています。そのなかで伝統的に日本の文化と不可分な関係にあった「自然」について考える機会も増え、江戸時代に生まれた自然と都市の中間領域としての「里山」の概念も再び注目されています。

日本でいう「自然」とは、19 世紀末に「NATURE」の訳語として使用されたものであり、本来は森羅万象、天地万物など人間を含むすべての創造物を意味していました。これは、自然と人間を対立するものとして考える西洋の自然概念としばしば比較されることです。古くは「万葉集」や「源氏物語」の時代から日本人の生活や芸術表現とともにあった「自然」は、山水画や浮世絵を経た戦後の美術においても、60 年代後半から 70 年代にかけて自然の物質を芸術表現の中心に据えた「もの派」など、重要な位置づけであり続けています。

一方、現代人の半分以上が住むという都市での生活は 1990 年代以降のインターネット時代を迎え、実体や実感を伴う感覚、感受性をますます希薄にしかねない環境にあります。それを反映するように、今日のアート作品には、現実と非現実、身体感覚と仮想体験などの均衡を求めるかのごとく、人間本来の感覚を呼び覚ます素材や手法、身体運動を伴うパフォーマンス的な表現の再検証を観察することができます。

本展「ネイチャー・センス展」では、「自然」という概念を現代の日本人クリエイターがどのように認識し、その自然知覚力をアートやデザインの世界でどのように活かしているのかを探ります。



栗林 隆《沼地》2008 年



篠田太郎《忘却の模型》2006 年



吉岡徳仁  
《吉岡徳仁展—スーパーファイバーレボリューション》  
2006 年

## 《出品作家》

### 吉岡徳仁 | YOSHIOKA TOKUJIN

1967 年生まれ。倉俣史朗、三宅一生に師事後、吉岡徳仁デザイン事務所設立。紙の椅子「HONEY-POP」や光そのものをデザインした照明「TOFU」など、数々の作品がニューヨーク近代美術館 (MOMA) を初めとする主要美術館で永久所蔵されている。デザインマイアミ／デザイナー・オブ・ザ・イヤー 2007 受賞。その他、NHK「プロフェッショナル 仕事の流儀」への出演や、NEWSWEEK 誌日本版では「世界が尊敬する日本人 100 人」に選ばれている。

### 篠田太郎 | SHINODA TARO

1964 年、東京生まれ。東京在住。見事な手作業によるメカニカルな彫刻やインスタレーションで知られている。造園を学んだ篠田は、「庭」や「人間と自然の新しい関係」をテーマに、日常の風景から宇宙まで触手を広げ、独自の感性で時代を感じる。RED CAT（ロサンゼルス）、広島市現代美術館などでの個展、釜山ビエンナーレ（2006）、イスタンブール・ビエンナーレ（2007）など国際展多数。

### 栗林 隆 | KURIBAYASHI TAKASHI

1968 年、長崎生まれ。1993 年武蔵野美術大学、2002 年 クンストアカデミーデュッセルドルフ（ドイツ）卒業。ケルン市立美術館（2003）、シンガポール・エルメス・ギャラリー オーチャードロード（2006）等で個展のほか、「ARTS TOWADA」十和田市現代美術館：パーマナントコレクション、「THERMOCLINE OF ART - NEW ASIAN WAVES」ZKM カールスルーエ・アート・アンド・メディア・センター（カールスルーエ／ドイツ）、「NEW NATURE」（ニュープリマス／ニュージーランド）、「GARDENS ガーデNZー小さな秘密の庭へ」豊田市美術館など国際展多数。

主催：森美術館

企画：片岡真実（森美術館チーフ・キュレーター）

## PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木 6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

# 小谷元彦展（仮称）

2010 年 11 月 27 日 [土] - 2011 年 2 月 27 日 [日] 森美術館（六本木ヒルズ森タワー 53 階）

いま国内外で最も注目されている現代美術アーティストの一人である小谷元彦（1972-）は、東京藝術大学で彫刻を学んだ後、彫刻、写真、ビデオ等さまざまなメディアを用いて精力的に制作活動を行ってきました。

小谷はしばしば恐怖、痛み、不安、皮膚感覚など、人間の心理や神経につながる現象や感覚を作品へと具体化し、普段私たちが忘れていたもの、あるいは見ないようにしてきたものを顕在化させます。毛髪でできたドレスや拘束具を身に着けた動物、異形の少女、やせ衰えた武者の騎馬像など、小谷の作品には一つの解釈に帰着することのない相反するイメージが混在しています。美と醜、生と死、聖と俗の境界線上にある表現は、見る者の潜在意識や神経を刺激しつつ妖しい魅力を放ちます。

小谷はまた、美術の歴史や技術の諸問題をほらむ「彫刻」というメディアに対して独自の批評的視点を持ち、彫刻の伝統、日本における西洋彫刻の受容と発展などを考察し

ながら新たな可能性を模索しています。京都に生まれ育った小谷は、幼い頃から仏像に慣れ親しみその造形に強い憧れを抱いてきました。それと同じレベルでフィギュアなどのサブカルチャーにも傾倒したという彼は、現代日本ならではのユニークなバックグラウンドをもった作家といえるでしょう。先鋭的かつ挑発的な表現が、精緻な彫刻を始めとする確固とした技術に裏打ちされている点も小谷の作品の特徴です。伝統と同時代性を併せもつその独特の造形表現と美意識は国際的にも高い評価を受け、2003 年のヴェネツィア・ビエンナーレの日本館代表に曽根裕とともに選ばれたほか、イスタンブール・ビエンナーレや光州ビエンナーレなど多くの国際展で紹介されています。

本展覧会は、小谷の初期の作品や新作を含む作品を一堂に集め、観客のあらゆる感覚を刺激する場を作り上げる試みです。現在作家が強い関心を示している重力や液体、気体などの物理的な要素をテーマにした新作も制作予定です。具象と抽象、伝統と革新、肉体と精神の境界に迫る小谷の作品を通して、美術表現の新たな可能性を探ります。

## 小谷元彦 | ODANI MOTOHIKO

1972 年、京都府生まれ。1995 年に東京芸術大学美術学部彫刻科卒業、1997 年に東京芸術大学大学院美術研究科修了。ヴェネツィア・ビエンナーレ日本館（2003 年）を始め、リヨンビエンナーレ（2000 年）、イスタンブールビエンナーレ（2001 年）、光州ビエンナーレ（2002 年）など数多くの国際展に出品。主な個展に、「モディフィケーション」（キリンプラザ大阪、2004 年）、主なグループ展には、「日本ゼロ年」（水戸芸術館現代美術ギャラリー、1999 年）、「現代美術の皮膚」（国立国際美術館、2007 年）、「どろどろ、どろん 異界をめぐるアジアの現代美術」（広島市現代美術館、2009 年他巡回）などがある。

主催：森美術館

企画：荒木夏実（森美術館キュレーター）



《SP2 'New Born' Viper A》  
2007 年  
H67×W28×D18cm  
ミクストメディア、アクリルケース  
撮影：木奥恵三



《SP4 the specter  
-What wonders around in every mind-》  
2009 年  
H230×W235×D105cm  
FRP、布、馬の毛、その他  
撮影：木奥恵三

## PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER

## MAMプロジェクト



MAM プロジェクトは森美術館が世界各国の才能豊かな若手アーティストを応援するプロジェクト・シリーズです。

### MAMプロジェクト011: ジュール・ド・バランクール

2010年3月20日〔土〕－7月4日〔日〕

ジュール・ド・バランクール（1972年生まれ）は、9・11以降のNYアート・シーンを代表する若手の一人です。絵画を中心に、彫刻（オブジェ）、インスタレーション、ビデオなどを制作、2006年のホイットニービエンナーレやロイヤル・アカデミー・オブ・アーツ「USA TODAY」出展などで国際的な評価を得ました。自由自在な色と線によって、日常生活の一場面、冒険、恋愛といったテーマから、政治や経済、環境問題、さらには精神的な次元の風景まで縦横無尽に表現します。本展のための新作も出展予定です。

作家活動の他に、NYブルックリンに「STARR SPACE」というオルタナティブ・スペースも運営、地域のより良い文化発展を目指しています。

企画：椿 玲子（森美術館アシスタント・キュレーター）



《衆愚の饗宴》2004年

### MAMプロジェクト012: トロマラマ

2010年7月24日〔土〕－11月7日〔日〕

トロマラマは、ファビー・ベビーローズ（1985年生まれ）、ハーバート・ハンス・マルリ（1984年生まれ）、ルディー・アレクサンダー・ハトゥメナ（1984年生まれ）により2004年に結成されたインドネシアのユニットです。これまでに、450枚もの木版画をコマ撮りしたり、大量のボタンとビーズを素材にして、ストップモーションの技法を用いたアニメーションを制作し、地元のグループのミュージックビデオとして発表しています。素朴な手触りとロウテクを絶妙に取り入れるトロマラマの作品からは、素材と美術、ポップカルチャーの新たな可能性が浮かび上がってきます。伝統的技法や身近な素材を用いて、古くて新しい、ローカルでグローバルなビジョンを紡いでいく創造性は、アジアの作家の新しい動きとして注目に値します。

森美術館では、新作を含むビデオインスタレーションを出品し、オリジナリティあふれる世界をご紹介します。

企画：荒木夏実（森美術館キュレーター）



《ザーザーズー》2007年

### MAMプロジェクト013: カテジナ・シェダー

2010年11月27日〔土〕－2011年2月27日〔日〕

チェコ共和国出身のカテジナ・シェダー（1977年生まれ）は、生活の中の小さな問題点や当たり前だと思われていることに着目してユニークなゲームを提案し、自分の家族や小さな村の人々に実行してもらうプロジェクトを行います。インスタレーションやドローイング、ビデオ作品として発表される、それらのプロジェクトは、ユーモアに溢れ、時に人々の交流を促す媒介となり、また時に問題の解決策ともなります。私たちは、その背後に資本主義により変化するチェコ社会と現地の人々の非常に個人的な日常の両面を垣間見ることも可能でしょう。近年国際展に多数参加するなど欧米で急速に注目を集めるシェダーですが、本展は彼女の作品を日本初公開する個展となります。

企画：近藤健一（森美術館アソシエイト・キュレーター）



《Installation over and over》2008年

## PRESS RELEASE プレスリリース

お問い合わせ 森美術館 広報担当：渡邊、田村、岡崎 Tel: 03-6406-6111 Fax: 03-6406-9351 E-mail: pr@mori.art.museum  
Website: www.mori.art.museum 〒106-6150 東京都港区六本木6-10-1 六本木ヒルズ森タワー

MORI ART MUSEUM

MORI ARTS CENTER